

第155回親和会

総会・懇親会開催

日時 11月11日 (土) 16:00~18:00
場所 京王プラザホテル (新宿) 本館4階 花
会費 前納 8,000円 (同封の振込用紙をご利用下さい)
当日 10,000円

☆昭和28年以前ご卒業 前納 4,000円
当日 5,000円

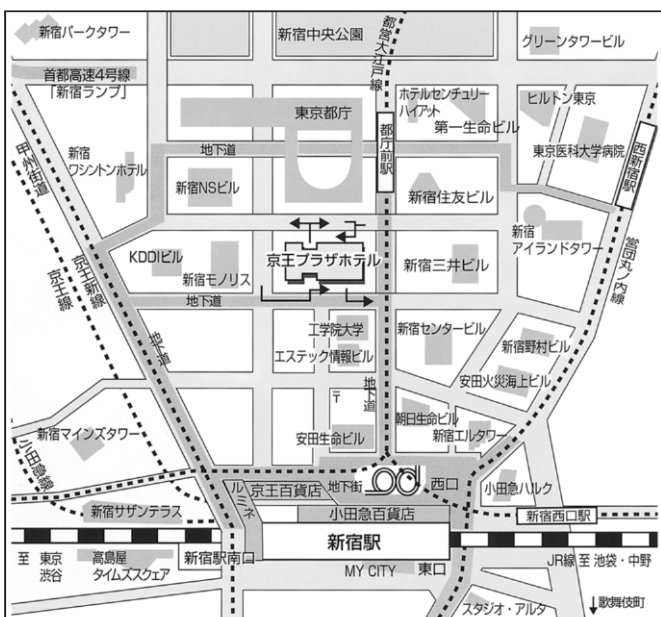
参加者情報 URL <http://www.shinna.iis.u-tokyo.ac.jp>

年に1度の懇親の場!

先輩、後輩が一同に会し懇親を深める年に1度のチャンスです。懐かしい思い出話に花を咲かせるとともに、近況を語り合い、先輩後輩を交えた幅広い情報交換を気軽にできる場となります。参加しなければ始まりません。皆様お気軽においで下さい。

時代の流れに合わせて進化する五号館!

昨年のアトラクション「本郷界限は今?」は大変好評でしたが、参加者の皆様から「五号館はどうなっているのか」という質問を多くいただきました。そこで今年のアトラクションでは、現在の五号館について、ハード面(設備など)、ソフト面(学生気質など)の両面から紹介させていただきます。五号館もこれまで様々な変化を遂げてきておりますので、「時代の流れに合わせて進化する五号館」と題して、写真やビデオを使って現在の五号館を紹介させていただきます。現在幹事は総力をあげて取材しております。請うご期待です。



で、「時代の流れに合わせて進化する五号館」と題して、写真やビデオを使って現在の五号館を紹介させていただきます。現在幹事は総力をあげて取材しております。請うご期待です。

参加者がネットでわかる!

懇親会費をお振り込み頂きますと、順次、親和会のウェブサイト(ホームページ)にお名前などを掲載させていただきます。皆様の『恩師』や『先輩』、『同期』の方々のご出席者の輪が益々広がることと期待しています。

親和会会報

向坊隆喜

17号

2006.10



温故知新

良き師良き友良き縁

吉田忠雄 (平成3年退官)



私は、学生時代は応用化学科工業化学専修に在籍し、縁あって東京大学に戻ってからは、燃料工学科続いで

反応化学科のお世話になった。各段階で良き師良き友に恵まれた。卒業論文の指導教官は加藤新八郎先生であった。ユニークな先生で、ゼミでの話は面白かった。私が卒論実験をやっている時に、先生は自ら手を下してオートクレーブの締め方をやって見せてくださった。今でも憶えている。当時から火薬には興味があつたので、火薬学専修の難波桂芳先生、正田強先生の授業を受けた。同級生の中には世話好きがいて応用化学科各先生の講義中の写真を撮って皆に配った。手元にあるが私の宝である。応用化学科では3人の親しい友人がいた。一緒に尾瀬に行ったり、伊豆に行ったりして楽しい時をすごした。残念ながら一人は物故した。大学を4年で卒業すると日本化薬(株)に入り、山口県の厚狭作業所でニトログリ

セリンやジニトロトルエンの製造に当たった。良き先輩に恵まれ会社における現場研究の楽しさを知った。また職場の人達とソフトボールを楽しんだ。石油化学製品の開発の為に京都大学化学研究所に派遣された。ここでも良き師良き友に会った。

縁あって燃料工学科の難波先生の所で働くことになった。学位を取るためにあまり授業負担無しに5年間研究に専念させていただいた。当時の燃料工学科は暖かい雰囲気、難波先生、安東新午先生、正田先生、石川肇先生、岡崎一正先生、浅羽哲郎先生、皆親切であった。学位取得と同時に東大紛争が勃発した。私にとっては学位取得後であつて幸いであつた。それを契機に私は仕事を早くこなすよう努力した。

正田研究室の米田罔昭さんとはよく一緒に酒を飲んだ。学生達にも恵まれた。一緒によく野球をやり、スキーに行き、麻雀をやった。ある時から学生には麻雀は勝てないと悟り、麻雀はやめた。

60歳で東京大学を停年退官すると、私は法政大学工学部に勤めた。小宮山宏先生の紹介であつた。ここでも学生に恵まれ、楽しい時をすごした。法政大学野球部に名監督山中正竹氏が帰ってきた。法政大学野球部は東京6大学で何回も優勝した。野球の好きな私は何回も神宮球場に足を運んだ。

法政大学の停年の2年前にこれも縁あつて故郷の足利短期大学に転職した。

高校時代の塾の恩師和田良信先生のお誘いである。更に縁は続き、1年後は足利工業大学学長を兼務することになった。和田先生に「私は運が良いです」と申し上げたら、浄土宗の高僧和田良信先生は「吉田君、そうではありません。これは縁なのです」といわれた。以来私は縁という言葉を大事にしている。

私の足利工業大学における任期も終わりに近づいてきた。しかし、私は関係者の勧めもあり、また協力者を得たので通称「花火大学院」を平成18年4月から開設した。そして、今は花火の研究・教育

生活を楽しんでいる。更に、故郷足利で何人かの知友を得た。この人達と今まで続いている旧友との交友は、古い先短い私にとってかけがえのないものである。長い人生には、つらいこともあり、楽しいこともある。これも縁であろう。



平成18年度版名簿発行

是非ご予約下さい!



発行予定: 平成19年2月
予約価格: 4,500円
(通常価格: 5,000円)

同封の振込用紙が予約申込書を兼ねています。
予約ご希望の方は11月30日(木)までに振込みをお願いします。

- ☆平成18年度版名簿の掲載項目
氏名, 自宅住所, 自宅電話番号, 自宅FAX番号, 自宅e-mailアドレス, 勤務先, 勤務先電話番号, 勤務先FAX番号, 勤務先e-mailアドレス
- ☆各項目の内容の加筆訂正部分を訂正用紙にてお知らせ下さい。
- ☆掲載無用の項目についても同様に訂正用紙にてお知らせ下さい。

リレー・エッセイ⑮ ハンカチ王子を見に行こう!

協発発酵工業株式会社医薬研究センター
 製剤研究所主任研究員
 木越 誠 (平成2年卒)



ここ数年のプロ野球界では、主力選手のメジャー流出、球団売却、スト、巨人戦視聴率低下など暗いニュースが多かったが、今年はWBC世界一で明るい幕開けとなった。さらに、好ゲームが続いた夏の高校野球に注目が集まり、駒大苫小牧の3連覇への期待が、それを阻んだ早稲田実業のエースへの人気に移り代わった。ハンドタオルで汗を押さえる仕草が真似され、日米高校野球や国体までテレビ放映されるなど前代未聞の過熱ぶりであった。話題の主である早実の斉藤投手は早稲田大学進学後にプロを目指すとのことである。是非、来年は神宮球場へハンカチ王子を見に行きましょう。いや、かつて法政・江川に初めて黒星をつけたのが東大であったように、ハンカチ王子を倒す東大を見に行きましょう。

とである。私よりうまい人はザラにいて野球人口の広さを実感したものである。私は、二木鋭雄先生・山本順寛先生のご指導を受け、大学院は先端研であった。そのため、講義その他で5号館に来た際には、黒木さんと5号館横でキャッチボールをし、小方さんの部屋でコーヒをいただくのが常であった。学生時代の楽しい思い出のひとつである。黒木さんは今なお、農学部グラウンドで早朝練習をされているとも耳にしている。

親和会の野球大会では決勝戦の後、両研究室が懇親会をしたものであった。昨年、京王プラザホテルでの親和会で、研究ではつながりがなかったが、親和会の野球、懇親会で知り合った他研究室の人から声をかけられ、十数年ぶりの再会となった。是非、現役の学生さん達にも、決勝戦後の懇親会を先生もお招きして開くことをお勧めする。

ここで、私の5号館時代の研究室選択と就職についても触れておきたい。私は、生体内の物質・現象を研究対象として工学的なアプローチを行なう二木研究室で学び、医薬系の会社に就職した。これもまた野球で怪我をし、入院した先で臨床現場の繁忙さ大変さを実感し、工学の立場から医療に貢献できることはないかと

感じたのがきっかけであった。5号館には世の中を便利にすること、快適にすることのシーズがたくさん詰まっている。それを患者さんが通常の生活に戻ることにも利用できないかと思ったのである。もっと多くの5号館出身の学生さんに製薬系企業へ入社し、工学的な視点から製剤を設計していただきたいと感じている。きっかけは何でもいい(ここまでは就職勧誘)。特に何か大きなきっかけがあったら、それをうまく利用しよう。本題に戻って、「ハンカチ王子を見に行こう」、まずは、これをきっかけに神宮へ東大を応援しに行こう。

● 総会議案 ●

- 理事退任の件
- 下川洋市 (昭和35年工業化学卒)
 - 瀬田重敏 (昭和35年分析化学卒)
 - 瓜生敏之 (昭和36年工業化学卒)
 - 御園生誠 (昭和36年燃料工学卒)
 - 三浦勇一 (昭和37年工業化学卒)
 - 和田啓輔 (昭和39年合成化学卒)
 - 相馬和彦 (昭和39年燃料工学卒)
- 理事選任及び会長・副会長の件

事務局のご案内

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
 東京大学工学部5号館内
 TEL/FAX: 03-5841-7400
 E-Mail: shinna@chem.t.u-tokyo.ac.jp

事務担当者 近藤 檀 (月~土)

収入の部

平成16年度繰越金	7,180,991
年会費	346,110
第154回親和会剰余金	94,685
利息	118
合計	7,621,904

支出の部

会報印刷費	435,891
通信費	1,357,640
親和会組織化費	38,000
大学院親和会支援費	92,678
事務局運営費	1,316,615
未収金	-398,370
合計	2,842,454

繰越金

4,779,450

《平成17年度会計報告》

恩師の思い出

卒論配属の時の岩倉義男先生

東京大学名誉教授

白石振作 (昭和37年卒)



3年の終わりに、4月以降の卒論の配属研究室を決めるために同級生が集まって希望を出し合う会合があ

った。一研究室最大5名という決まりがあり、牧島教授の研究室など希望者が多く、抽選などで決めなければならぬところもあった。岩倉義男先生は、その年に東工大から招聘されて来られたばかりということで定員は2名であった。私自身は有機化学に興味があり、一度も講義を聴いたこともない先生に不安もあったが、思い切って岩倉研を志望した。あと一人S君が志望して2名となり、研究室配属は決定した。

4年になり、岩倉研究室というところに出かけて行くと4号館の1階の小さな部屋で、先に着任されていた助教の宇野敬吉先生と大学院生だという原重義さんが実験をしていた。原さんは、有機高分子化学をやっていたのに昨年の卒論配属の際、定員の関係で窯業の研究室

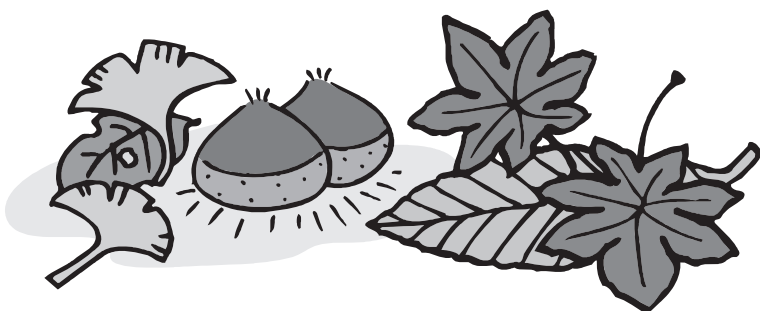
に配属となったので、大学院では希望の分野に来たかったということで岩倉研に來っていたのだ。彼は東大岩倉研の第1号の課程博士となり、帝人に就職し、よい研究を行っていたが、40そこで糖尿病のため亡くなってしまった。惜しい人を亡くしたと思う。岩倉先生と徳山まで葬式に行ったことを思い出す。

配属後数日して岩倉先生が研究室に來られるから卒論生は研究室に來るようとの指示があり、例の小さな部屋に伺って初めて岩倉先生にお目にかかった。幅のよい穏やかな初老(?)の紳士だった。そこで卒論のテーマとしてこんなものを考えていると、三つ四つのテーマを簡単な説明とともに話された。私とS君がそれぞれ希望のテーマを決めた後で、先生が、「諸君がゼンユウ(善友)であることを期待して、歓迎会を渋谷でやるから」とおっしゃった。その当日、原氏とS君との3人で待ち合わせ場所に伺うと、また、「ゼンユウのようだから」と、レストランに連れて行かれた。ゼンユウという言葉は耳慣れない言葉で、まさか全優ではないだろうと思った記憶がある。

岩倉先生からいただいたテーマは、過去10年くらい卒論生達がやっていた事柄で、未だ、ちががあかないものだといいことで、しかも複素環化学絡みで面白そうだなと思選んだものであるから、内容はよく分からないので過去の卒論その他について宇野敬吉先生にご教示いただきながら進めることになった。とは言っ

てもまだ5号館は建築中で、岩倉研究室は新設講座でまともな研究室はなく、4号館の2階の祖父江先生の研究室の一部を間借りしての発足であった。その部屋には祖父江研の研究生で兼重(?)さんという方が一人で研究されていた。卒論の学生が二人で何やら訳の分からないことをやっていたのでご迷惑をかけたのではと思っている。

この原稿を書きながら、当時のことを思い起こしていると、様々な場面が走馬燈のように蘇って來た。



編集後記

今年の四月、広島私の母校の高校では創立百周年を祝う行事が盛大に行われました。同窓会の担当者の方々は募金活動や様々な行事の計画・実施とボランティアで大変な苦勞をされたことと頭の下がる思いです。また、この会報の中にたまたまハンカチ王子の話が出ていますが、思いがけず甲子園出場を決めた高校などでは、同窓会は資金集めに、そして慣れない応援団員にと、これまた大騒ぎだったことだろうと思います。

こんなことを書いてるのは、この親和会に対して、「その存在に意味があるのか」とか、「親和会は私にとって何のメリットももたらさない」といった会員の方々の声が絶えず聞こえてくるからで、誠に正直なご意見ではありますが、それはちよつと違うのではないかと思うからです。学校の同窓会の仕事は、卒業生たちの動静をきちんと把握し、その情報や母校の現状を卒業生たちに適宜提供していくことが基本と考えますが、その上でさらに果たすべき重要な役割は、卒業生である会員に恩恵を与えることではなく、むしろ卒業生たちの、今の自分を育ててくれた母校に対して恩返しをしたいという気持ちを、ある形に具体化していくことではないかと思うのです。現時点で、こうした意味での親和会活動は、まだ研究室対抗のスポーツ大会の支援や懇親会での学生の優待制度くらいしかありませんが、ともかく会員の皆様には、親和会を「卒業生である自分に様々なメリットを与えてくれる」ところではなく、「卒業生である自分がお礼に何かをしてあげたい」のを手助けしてくれるところだと考えていただければと願っています。

(溝部・記)